

研修で
学校が
変わる

人権教育主任研修② まとめ

講師 竹内 和雄氏
(兵庫県立大学 准教授)

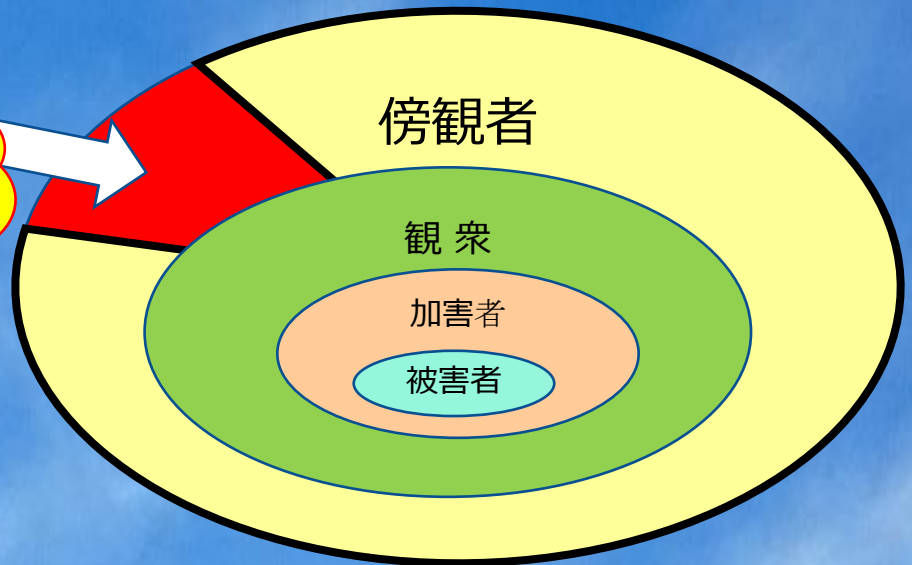
会場 市人権交流プラザ
H30年10月30日(火)

「知っておきたい子どものネット社会」
～いじめの未然防止・早期発見のために～

いじめの4層構造

仲裁者

この部分を増やすことが重要



「子どもの現状」を知ることから

スマートフォンの普及で、人間関係が変化し、子どもたちの「いじめっ子像」も様変わりした。分かりやすくアニメ「ドラえもん」に例えると、子どもに聞くと、いじめっ子が暴力的な「ジャイアン」だという答えは激減。変わって優等生の「しずかちゃん」が急増している。無料通信アプリLINE(ライン)を駆使し、いじめの頂点に立つ。こうした子どもの実情を知り対策をとっていかねばならない。

ネットによるいろいろな問題事案等、子どもに具体的なことを示して指導していかねばならない。

解決方法を子どもと一緒に考えたり、中学生が小学生に、というように先輩から後輩への呼びかけが効果があった。



ま
と
め

スマホがあるから、いじめが起こるのではない。たまたまスマホに向かっていっているだけ。ネットの問題ではない、結果としてネットという形。本質は子どもの「さみしさ」。本当は先生に知ってほしい。愛してほしい。「あの子、しんどいなあ」という子に「スマホばかりに行かず、私に言うてや。」と。しっかり子どもを見て、子どもの気持ちをしっかり受け止めてほしい。

ネットによるいじめは、子どもから知恵をもらい、子どもと一緒に対策に取り組む必要がある。平成を生きる彼らを教え導くわれわれ教師は、平成の大人として学ばなければならない。